



# つるがしま里山サポートクラブ 通信

第4号  
2021. 07. 01  
発行責任者  
小澤邦彦  
編集責任者  
杉山行汪

## 2021年度の展望

## 代表理事

小澤 邦彦

2019年末から始まった新型コロナウイルスの感染拡大から1年7ヶ月を経過し、オリンピック開催迄40日に迫る中で、未だに具体的な収束の見通しが見えない日本の防疫体制はどうなっているのでしょうか。鶴ヶ島の感染者も徐々に増加していますが、皆様、コロナに注意しながら活動していきましょう。

2021年は、自然の中での活動を中心に、市民の皆様にも自然体験を通じて、里山の大切さを考えてもらいたいと思っています。6月12日の高倉での里山体験会では森の中で子供達の楽しい声があふれ、沢山の家族が楽しんでくれていました。里山の自然の大切さを感じた一瞬でした。

私たちの活動を、これらの子供達が大人になって、その子供が楽しめる時代まで、続けていければと願っています。このため、今後、継続的な活動場所の確保、会員の高齢化対策など、一つ一つ解決していくことが求められています。これからも課題を解決していきながら取り組んでいきたいと思ひます。

里山を子供達に残す活動に参加しませんか。一緒に、楽しい活動を続けていきたいものです。

## ありがとう！そして・・・

石川 利江

保育士として学童保育の指導員として様々な事はありましたが、まずまず好きな仕事を40年続けて来られました。特に学童保育では放課後、自分を解放し、好きな事にわくわく・ドキドキ出来る環境作りを心掛けてきました。私も自然が大好きだったこともあり、子ども達は毎日自然の中に飛び出して行きました。そんな時里山サポートクラブを知りました。子ども達にもっと自然の中で伸び伸び過ごさせてあげたい！自分を表現出来る場を確保してあげたい！という気持ちを持っていたので、すぐに偵察に行きました。そこには何と自由に自己主張し、話している途中でもう動いている、やりながら考えれば！と言ってくれる魅力的な人達が森にいました。

78億人以上の人が存在するこの地球で、一生の間に出会えるのは、いったい何人くらいでしょうか。たくさんの人とすれ違っても、言葉を交わす人、まして共通の話題を持てる人はほんのひとりにぎりです。こんな人たちに出会えた事に感謝しました。ターザンロープを竹で作ったり、ツリーハウスを作ったり、森の中でのマラソン大会など子ども達にとってわくわくドキドキを沢山プレゼントしてもらいました。本当に動きが早く、純粋に未来の子ども達のためにという気持ちで沢山の力を貸して貰い森での保育は続けられました。

仕事をリタイアして2年。今までとは違う沢山の経験をしてきた中でやっぱり残ったワードは「子ども」「自然」した。私が子ども達と森の中ですごしていた頃とは比べ物にならない位、窮屈で反対方向に時代は動いています。悲鳴を上げている子ども達の心は自然の中で解放されて行きます。あの時代は良かった！では済まされない環境に何か出来ないだろうか！

もちろん森を整備すること、そこに子ども達を呼ぶ仕組みを作ること、その為に自分のスキルを上げていくことなどなど。

具体的にはまだ動けずお手伝いのみですが、近い将来形に出来る様に、沢山の元気をくれる子ども達も楽しく、もちろん自分も楽しく、それに共感してくれる仲間も楽しく、自然を真ん中に色々な事に関わりあって豊かな時間をすごして行きたいと思っている今です。



## 4月、5月の主な活動

### 4月活動

親子タケノコ掘り体験会を4月、5月に合わせて2度行いました。今年はタケノコの不作と盗掘に悩まされました。小彼岸桜千本植樹構想の推進として太田ヶ谷の森に59本植樹、大橋市民センターに3本植樹しました。五味ヶ谷の森も整備しました。



### 5月活動

小彼岸桜の2年目枝を採取し挿し木300本を作成し会員が1年自宅庭で育成することとした。又大谷川、飯盛川の清掃し、成育し過ぎた樹木や枝の伐採を行いました。中学生もお手伝いです。



## 4月～5月 実施

4/ 3(土)太田ヶ谷の森に小彼岸桜植樹  
4/10(土)小彼岸桜の移植  
4/17(土)五味ヶ谷の森整備  
4/24(土)第1回親子でタケノコ掘り体験  
4/24(土)大橋市民センターに小彼岸桜植樹  
5/ 5(水)第2回親子でタケノコ掘り体験  
5/12(水)小彼岸桜挿し木苗採取  
5/16(水)大谷川クリーン作戦  
5/22(土)飯盛川復活大作戦  
5/26(水)藤中学校校庭草刈り応援

## 6月～8月 計画

6/ 5(土)藤金の森整備  
6/1-14 環境月間支庁レベルに展示  
6/ 8(火)アペルト自然学習支援  
6/12(土)高倉市民の森里山体験会  
6/26(土)太田ヶ谷の森整備  
7/17(土)太田ヶ谷の森里山体験会  
7/21(水)会員親睦バーベキュー  
7/24(土)ボランティア体験会 in 五味ヶ谷  
8/ 7(土)ボランティア体験会 in 高倉  
8/28(土)ボランティア体験会 in 藤金

## 農大跡地公園の紹介と展望

小沼 英二

**経過** 2015年4月、埼玉県農業大学校は熊谷市へ移転し、その跡地は“農大跡地”(39.2ha)と呼ばれていました。所有者である埼玉県は跡地の整備を行い、産業集積用地として約20haを造成し、企業誘致以外の土地約13haが2020年11月、鶴ヶ島市へ移管され、2021年4月1日、“鶴ヶ島グリーンパーク”として再生されました。グリーンパークには調整池を兼ねた約5haのスポーツエリア(野球場やサッカーグラウンド)と緑地(6.6ha)があり、緑地は“太田ヶ谷の森”という名称で開園しました。

**太田ヶ谷の森の将来構想** 2020年12月、市：都市計画課、地元自治会等及び環境団体で構成する“太田ヶ谷の森づくりプロジェクト”が発足し、どのような森に育てていくのか検討を開始しています。森整備の基本方向は農大跡地が貴重な動植物が生息している場所であり、大谷川の源流である湧水がある自然豊かな地であることから、“自然を生かした森”として市民に親しまれるエリアにしていくこととしました。

**今までに実施した取組** 4月3日、開園イベントとして関係者による植樹祭が行われ、わがクラブで育苗してきた小彼岸桜苗59本を太田ヶ谷の森に隣接する道路沿いに植樹しました。3年後にはお花見ができることが楽しみです。4月25日、ヘイケ・ゲンジボタルの幼虫を100匹ずつ大谷川の源流付近に専門家の指導のもと放虫しました。うまく育てば6月にホタルを森で見ることができます。

**太田ヶ谷の森の今年度わがクラブの取組予定** 6月：森内の下草刈り・枯れ樹木の伐採・散策路整備  
7月：南小の子どもたちを中心に里山体験会 9月：市制30周年記念植樹祭準備 2月：枯草刈り・枯れ樹木の伐採・散策路整備

◎ わがクラブのこの森への取組みは初めてなので状況に応じて臨機応変に対応します。





今年の「地域の恵み 親子でタケノコ掘り体験」は新型コロナウイルスによる感染症の蔓延の中で何とか開催できました。このイベントは、自分でタケノコを掘り、皮をむき、調理してその場でいただくという、子供たちだけでなく保護者の皆さんも楽しみにしている、地域に密着したイベントになっています。例年、二日間、40組/日の募集をしており、数日で満杯になっています。



昨年は緊急事態宣言下であったため残念ながら中止しました。今年は、皆さんが楽しみにしているイベントなので、内容を変更して開催することとしました。ソーシャルディスタンスをとるため会場を樹林地内に移動し、密集・密接を避けるためにタケノコ汁やフォイル焼などの調理をやめました。今年は4月24日に37組112人、5月5日に29組93人の皆さんが参加されました。今年はタケノコの数が少ないこともあり、一組一本と制限しました。大小さまざまでしたが皆さんにタケノコを持ち帰っていただきました。

京都に住む孫娘が、今は高校3年生ですが、タケノコの季節になると鶴ヶ島で食べたタケノコのフォイル焼がおいしかったと今でも話すそうです。子供たちに、自分で掘ったタケノコをその場で調理して食べたことが懐かしく楽しい思い出として長く残り、それが鶴ヶ島の緑の保全への関心に広がることを期待してこれからも活動を続けてゆきたいと考えています。



2003年につるがしま里山サポートクラブが発足し、創立草々の4月19日にはタケノコパーティーを開催しています。その後、東公民館（現東市民センター）まつりに合わせて、たけのこ汁&竹林保護キャンペーンを実施し、2008年からは、開催時期を5月5日に移し、「お母さんのタケノコタイム」と名付けて開いています。その間、広域おやこ劇場ひき北いるま、杉下地域支え合い協議会、NPO法人一二三富の会の皆さんの協力を受けるようになりました。2016年からは、「地域の恵み 親子で楽しむタケノコ掘り体験会」と名を変えました。

2018年からは100人以上の皆さんが参加しています。

タケノコ掘りは、竹林の恵みをおいしくいただくこと以上に、竹の本数を管理する重要な整備作業の一つです。五味ヶ谷の森のような小さな竹林でも毎春数百本のタケノコが生えてきます。成長するタケノコの本数を制限し、一方で古い竹を伐採して竹の本数を管理する整備作業を、年間を通して行っています。毎年実施している、「そうめん流し」と「門松教室」も同じく竹林管理の一環です。



**タケノコ泥棒** 今年は多くのタケノコが盗難にあい、「親子でタケノコ掘り体験」の開催が心配になるほどでした。盗掘禁止のビラを貼りましたが、ビラの下タケノコさえも盗まれてしまいました。また、会員が早朝の見回りなどを行いましたが半月ほどの間に数十本のタケノコが被害にあいました。鶴ヶ島市にこんなに公德心の無い人がいるのかがっかりするとともに、子供たちの楽しみを奪う行為に怒りを覚えました。このような不法行為への対策は「市民の目」が一番です。四季折々に皆さんが五味ヶ谷の森を散策し、この森では市民の目が光っていることを知らせることが最良の防止策になると思います。ぜひ、五味ヶ谷の森の散策を日々の暮らしに組み込んでください。

鶴ヶ島市は教育支援室「アペルト」の名称で不登校児童のための機関を設置しています。当クラブは数年前から教育委員会の依頼を受けて高倉市民の森で野外活動の支援活動を行っています。今回(6月8日)は、午前十時に高倉のヤギ小屋に集合。肥沃な畑地に生い茂る草地に50㎡程度の囲いが有り、今朝は1頭のヤギがのんびりとこちらを向いていました。ヤギに話しかけてからスタートしました。教育支援室と社協の職員、サポートクラブの面々が児童と一緒にここから池尻池に歩いて向かい、そこで胴長或いは長靴に履き替えて森の中を流れる飯盛川のごみ拾いと魚取りを行いました。普段は接することの無い知らない大人たちに話しかけられ、自分の考えを喋って楽しかったのではないかと思います。それはまた私達も同じ体験であって、生きて行くことは「してあげたりして貰ったり」の触れ合いの積み重ねだと改めて気づき、次回も参加して欲しいと思いました。



4月中旬から下旬頃、社殿の近くでイヌザクラの大木が白い花を咲かせます。狭い意味でのサクラとは違って小さな花が房状に付き、ブラシのように見えます。鶴ヶ島市には比較的にイヌザクラが多いようです。その近くには植えられたと思われるコウヤマキの木とアスナロの若木があります。

参道の左右はスギを主体とした境内林で、林の下は薄暗いですが、春にはタチツボスミレやタチシオデ、キランソウ、ジュウニヒトエ、ヤブタビラコなどの可憐な花が彩ります。

境内林の西側に連続してコナラを中心とした雑木林があり、市民の森四号地になっています。コナラの他に、ウワミズザクラやヤマザクラ、ミズキ、ムクノキなどの落葉樹が見られ、それらに交じってシラカシ、シロダモなどの常緑樹があり、シラカシの幼木が育っている場所もあります。春にはホウチャクソウ、ササバギンラン、クサイチゴ、ミツバツチグリが花を咲かせ、最近市内で少なくなったフモトスミレの花も見られます。湿り気の多い場所にはニョイスミレ、ムラサキサギゴケが咲きます。

夏から秋に花を咲かせるノハラアザミ、シラヤマギク、ヒヨドリバナやサジガクビソウ、シンミズヒキなどもあります。



ジュウニヒトエ



ササバギンラン



イヌザクラ



ヤブタビラコ



ムラサキサギゴケ



フモトスミレ

※ 高德神社は創建1913年(大正2年)、旧村の太田ヶ谷、三ツ木、藤金、上広谷、五味ヶ谷に点在していた神社を合祀した神社である。社地は鶴ヶ島村初代村長の息子の七代目内野重右衛門(大正2年から6年間村長を務める)の七反七畝(凡そ2,300坪)の寄進による。鶴ヶ島市内最大の神域を持つ神社である。参拝者は絶えず、氏子総代会の活動も活発で上記五ヶ村の氏子が年番で当たっている。(編集部)

### 編集後記

当クラブの最初の活動は高德神社の神域でした。そこで今回は鶴ヶ島の自然を守る会の島崎さんにこの神社の境内地の草木について紹介して頂きました。これからも鶴ヶ島の自然、歴史、地勢等について紹介して参ります。また、旧農大跡地の太田ヶ谷の森が市民に愛されるように当会も色々な企画をしています。皆さんの参加と協力をお待ちしています。

ホームページ: <http://www.satoyamasupport.com/>